

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岐阜大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ギフダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F121110105976
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	岐阜県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	全学共通教育科目・地域系インターンシップⅡ
	学部・研究科等名	地域協学センター
	担当教職員名・役職	益川浩一:教授、大宮康一:准教授、塚本明日香:准教授、後藤誠一:助教、伊藤浩二:助教、二村玲衣:助教
	受講者数実績年度	令和4年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	12
	受入企業等数	2
	受入企業等名	美濃加茂市役所(まちづくり課)、瑞浪市役所(市民協働課)
	産学協議会の整理上の類型	1.令和4年度実績につき分類未適用
	キャリア形成支援活動の分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)を対象としたキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動 12.その他
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	当該科目は、低学年(1年、2年)から高学年(3年、4年)まで、どの学年も受講が可能である。低学年(1年、2年)の受講生にとっては、同科目は、就職活動に入る前段階で、専門分野も踏まえながらも、専門外の分野でのインターンシップに挑戦できる環境を整えており、学生自身が多様な経験を通して、将来の就職活動や自身のキャリア形成に向けて主体的に考え、行動できることを目的としている。さらに、就職活動時に、同科目で得た経験や知識が学生たちの自信となることで、積極的に企業主催のインターンシップ等に挑戦できることを期待する科目としている。	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	学生が単に就業体験を行うだけではなく、本学が所在する岐阜県内の企業が抱える課題に関連して、企業から提示されたテーマをもとに課題解決に取り組むことで、状況把握力、論理的思考力、主体的実行力を伸ばすことを狙いとする。またインターンシップ全体を通して学生自身が自分に必要な能力を認識することで、以後の学生生活・学習活動における目的意識の向上を図る。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われているか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	1.当該キャリア形成支援活動は、教養教育科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	当該インターンシップ科目は、低学年(1年、2年)から高学年(3年、4年)まで、どの学年も受講が可能である。

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	実施期間中に教員が受入機関や企業を訪れ、学生の参加状況等を学生本人や受入機関の担当者にヒアリングする。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・当該インターンシップの趣旨や意義の説明 ・インターンシップ参加に際して、注意事項や心構えなどの説明 ・仕事や、なぜ働くのかをテーマにしたグループワーク ・インターンシップ参加の動機や期待について話し合うグループワーク ・受入機関や企業に関する情報収集と企業等研究 ・インターンシップ参加に向けた目標設定(レポート提出)
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・日報や成果物に基づき、インターンシップの活動内容や成果を整理するためのグループワーク ・インターンシップでの学びや経験、気付きについて共有するグループワーク ・事前学習で設定した目標と照らし合わせた振り返り(レポート提出) ・成果発表会の実施:地域系インターンシップ・産業系インターンシップ合同で受入機関・企業毎に発表を行い、全受講者で学びを共有する。受入機関や企業の担当者も出席し、学生に対してフィードバックを行う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・受入機関作成のインターンシップ実施計画書に基づき、活動内容について確認 ・学生に対する参加状況に関する聞き取り ・受入機関の担当者に対する学生の取組み状況に関する聞き取り
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	学生に講義アンケート(事後)を依頼し、満足度や改善点についてフィードバックを得ている。また事前学習と事後学習それぞれにおいて個人レポートの提出を求め、自ら設定した学修目標が、インターンシップによってどの程度達成されたのかについて自己評価させることで、到達度の確認と、学生自身の自己理解を促している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	5日間の就業体験+事前学習3コマ(90分×3回)・事後学習2コマ(90分×2回)・成果発表(受入機関や企業からフィードバック含む)
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	4日間の就業体験+事前学習3コマ(90分×3回)・事後学習2コマ(90分×2回)・成果発表(受入機関や企業からフィードバック含む)
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習は通常講義期間に、就業体験は長期休業期間に設定することで、学生が自らのキャリアについて落ち着いて考えられるようにしている。受入れ企業との相談の上、4ないし5日間の就業体験を行うほか、大学での事前・事後学習、企業向け合同成果報告会を併せて実施している。

項目	確認事項	届出内容
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	事前に教員が受入れ企業と面談を行い、講義科目としてのインターンシップの目的について理解を得たうえで、企業のニーズを踏まえたプログラム設計に協力している。インターンシップ中も教員が現場に赴き、プログラム内容についての確認と企業担当者との意思疎通を図っている。成果発表会には企業担当者を招待し、学生に対し発表内容を踏まえた助言・評価を頂いている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	登録システムの都合上「対象学年 1年生」と表示されているが、実際には全学年対象。 https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value(risyunen)=2022&value(semekikn)=1&value(kougicd)=2ZGF441070&value(crclumcd)=T-2022
問い合わせ先	大学等名	岐阜大学
	担当部署名	学務部学生支援課就職支援係
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	058-293-2164
	メールアドレス	job@t.gifu-u.ac.jp